

多文化共生シンポジウム in 加美

～多様な人材が支える地域の未来～

■開催日:令和4年1月30日(日) 13:00~16:00

■開催場所:中新田バツハホール

■プログラム

○基調講演:加美町スポーツ推進室 国際交流員 カタリーナ・サラビア氏

○パネルディスカッション

コーディネーター (公財)宮城県国際化協会 総括マネージャー 大泉 貴広氏

パネリスト 加美町国際交流協会 会長 今藤 紀雄氏

加美町スポーツ推進室 国際交流員 カタリーナ・サラビア氏

加美町地域おこし協力隊 楊 采容氏

旭興業株式会社 技能実習生 グエン・ヴァン・ティ氏

○講評 加美町長 猪股 洋文 氏

宮城県では「多文化共生社会」の実現を目指し、平成31年3月に「第3期宮城県多文化共生社会推進計画」を策定し、「外国人県民等とともに取り組む地域づくり」を推進しています。去る1月、近年多様な人材が様々な立場で地域の多文化共生社会の形成につながる活動を行い、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして事前合宿を受け入れる等好事例が続く加美町でシンポジウムを開催しました。※「多文化共生社会」とは、国籍、民族等の異なる人々が、互いに文化的背景等の違いを認め、人権を尊重し、地域社会の対等な構成員として共に生きる社会です。

基調講演

皆さん初めまして。

カタリーナ・フェルナンダ・サラビア・シルバ といいます。長いので、是非カタリーナまたはカタと呼んでください。

から

ーチリは辛くないー

皆さん「チリ」って知っていますか？チリと言えば何でしょうか？今まで「チリと言えば？」と、聞くと、必ずチリパウダーとかチリソースなど辛い食べ物ができます。インターネットで検索してみても、チリコンカンなどとてもびっくりしました。今日は、これだけ覚えておいて欲しいです。チリは辛くないです。チリワインやチリサーモン、チリ産レモンなどチリ産のものはたくさんあります。ぜひスーパーで探してみてください。

ー日本語、日本との出会いー

今日ここにいる外国人の方も「なぜ日本語を勉強したのですか？」と、何回も聞かれたと思います。私も日本に来て何回も聞かれました。答えは簡単です。私は子どもの頃からアニメが大好きで、そこで描かれた日本の風景がとても不思議で、大人になったら是非日本に行きたいという夢を持つようになりました。チリサンティアゴ大学(University of Santiago, Chile 略してUSACH(ウサチ。))では、日本語と英語を勉強し、日本祭りなどを通して日本文化も学びました。

ー加美町の国際交流員としてー

2019年1月にUSACHを卒業し、2019年8月にJETプ

ログラムの国際交流員として加美町に来ました。初のチリの国際交流員です。ESID (Every Situation Is Different:場合によって違う)をモットーに、通訳やイベント企

第1回加美町国際交流員写真展



カタリーナ・サラビア

加美町スポーツ推進課 国際交流員

チリ共和国サンティアゴ生まれ。幼いころからアニメを通じ、日本文化に興味を持つ。チリサンティアゴ大学で英語・日本語を専攻し、2017年に国費外国人留学生に選ばれ、大阪樟蔭女子大学で研修生として日本語日本文化を学ぶ。2019年よりチリのパラリンピック「復興ありがとうホストタウン」である加美町の国際交流員を務める。



画、文化理解など様々な仕事をしています。町の広報誌のLa Once(ラオンセ)というチリの文化紹介欄を執筆するほか、公民館や小中高で異文化理解講座を開催したり、保育園で英語教室などを行っています。昨年は、「加美町国際交流員写真展」を開催し、10人ほどの外国人に参加してもらいました。コロナ禍で無くなってしまった外国の方と地域の方の交流が、写真展をきっかけにできるのではと思い企画しました。

ー復興ありがとうホストタウンー

加美町は、東日本大震災での南三陸との交流をきっかけにチリの「復興ありがとうホストタウン」になりました。2021年にチリのカヌーと陸上のパラ選手団の事前合宿の受け入れを行い、通訳として活動しました。パラカヌー選手とは中新田高校、志津川高校をつないでオンライン交流会を実施しました。合宿後もチリのパラ選手たちとSNS等を通じて連絡を取っています。パラ選手たちからは、加美町に来て良かった、加美町に必ず戻りたいというメッセージをもらいました。

チリパラ選手団の受け入れ



2021年 パラカヌー・パラ陸上 事前合宿

FOJ訪問



チリ青少年オーケストラ財団 (FOJ)

ー当たり前は当たり前じゃないー

私はチリに生まれ育ち、ずっとチリにいたので、私なりの当たり前がありました。それが加美町に来て、簡単なことから複雑なことまで私の当たり前は当たり前ではないと気づきました。例えば、チリでは挨拶は頬っぺにチューするというのは他人でも当たり前ですが、それは日本では出来ません。また、多文化共生の必要性にも気づきました。加美町に来て、日本人だけではなくアメリカ人や台湾人、カナダ人など様々な国の友達がいます。集まったときには「私の国ではこうですが、あなたの国ではどうですか。」と話しながら、毎回楽しい時間を過ごしています。



<チリは日本の反対側>

南米にある細長い国で、長さは日本の2倍の4,300km。日本とは地球の裏側、反対側にあり、時差は12時間。

・正式名称: República de Chile ・首都: サンティアゴ

・人口: 1870万人(東京より少し多い) ・公用語: スペイン語

北にはアタカマ砂漠という世界一乾燥した砂漠があり、南には氷河のあるパタゴニアがある。モアイで有名なイースター島(ラパ・ヌイ)もチリにある。

仕事や暮らしについて

楊氏(以下、「楊」):地域おこし協力隊として地域のPR活動やイベント運営等を行っています。加美町には5人の地域おこし協力隊がいて、私はインバウンド観光について担当しています。「ナマイキTV」の取材を受けて、加美町のわさびをPRしました。他にも切込焼の陶芸コースの紹介やSNS等で魚取沼のテツギョ、雪下ろし等を紹介しています。知らないでPRできないと思うので、何でも体験させてもらっています。台湾では雪は高い山でしか降らないので、加美町に来てすごいと思いました。他にも地域おこし協力隊は、地元の方との交流もミッションのひとつなので、町民向けに台湾の理解講座を行っています。台湾では家庭の味の台湾カステラを「やくらい薬師の湯」の「カフェぐらん」で開発して商品化しました。



よう さいよう
楊 采容

加美町地域おこし協力隊

1994年生まれ台湾台北市出身。台湾東海大学農学部動物科学科卒業後、一般企業に就職。その後、2018年4月から仙台国際日本語学校に留学。2020年5月より観光(インバウンド)の振興担当として加美町地域おこし協力隊に就任し現在に至る。

ティ氏(以下「テ」):技能実習生として、旭興業株式会社で、資格を取り、道路の舗装工事などを行っています。旭興業には、6人の技能実習生が居ます。他の会社の実習生も一緒に実習生同士で誕生日会をしたり、ベトナム料理を作ったりしています。実習をしながら、日本語の勉強をして、日本語能力試験のN2に合格しました。次はN1を目指しています。休みの日は、チームを作って他の会社の人たちとサッカーをしたり、アームレスリングの練習をしたりしています。



グエン・ヴァン・ティ

旭興業株式会社 技能実習生

1988年生まれベトナム社会主義共和国ゲアン省ナムダン県出身。2011年から2016年までアフリカのアンゴラ共和国で建設作業に従事。2018年より旭興業(株)の技能実習生として勤務し、現在に至る。日本語能力試験N2に合格し、現在N1合格に向けて勉強中。

一大泉コーディネーター(以下「大」):県内には工事現場や食品加工の工場などで実習している技能実習生がたくさんいます。人と接する機会が少ない職種なので、普段私たち日本人が生活していると、技能実習生の存在にあまり気づかないのですが、私たちの暮らしを支

えていることを覚えておいていただきたいと思います。日常生活もエンジョイしていることを知っていただきたいですね。



【ティさんの職場の方のお話】

- ・まじめで責任感も強く日本語能力も高いので、全幅の信頼を置いています。
- ・他の会社の日本人との打合せもお任せできるくらい信頼しています。

今藤氏(以下、「今」):加美町国際交流協会は、2014年8月に設立しました。現在会員は30名です。3年連続で行われた、町づくりを学ぶ町民向けドイツ研修視察をきっかけに協会を立ち上げました。活動は海外料理教室、イングリッシュキャンプ、音楽と舞踏の祭典などでしたが、交流事業にシフトして、町内在住の外国人を知り仲良くなってつながりを持つことを目標に「異文化交流を楽しむ会」を開催しました。各町内の企業に多言語版の案内チラシを配布して、企業や町民の方80人以上の方々に参加していただきました。加美町に住んでいる外国人の方々は色々な特技を持っていますので、交流をもっと広げられるように新しい年度の事業に取り組んでいきたいと思っています。

一大:会員の方々が、本当に熱心に活動していらっしゃる、みなさんが会のためにそれぞれに意見を出し合って話し合う姿勢がとても素晴らしいなと思っています。役場の方も、国際交流協会の活動の意義というのをしっかり理解されて、必要なサポートをし、国際交流協会の方も役場の方をすごく信頼していて、両者が車の両輪の輪のようになって、この地域のために活動していらっしゃるという印象を強く持っています。

加美町のいいところ

カタリーナ氏(以下「カ」):出身のサンティアゴとは全く違うところ。とても自然豊かで、空気が美味しいです。そして町の人が優しい。私が「これやりたい!」と言うと、必ず「応援します」と、声を掛けてくれます。広報誌にも記事を掲載しているので、それを読んでくれた方々が「カタリーナさんですか?」と優しく声を掛けてくれます。去年、コロナでお盆祭りが中止となってその代わりにライトアップイベントが開催されました。町の人からイベントを紹介してもらって、着物のお店できれいな着物を貸してくれました。こうした体験もとても嬉しかったです。楊さんも着物着ましたよね。

楊:はい。本当に町の人は優しくしてくれます。私も大体カタリーナさんと同じですが、自然もいいし、そして人も優しいです。日本で初めての就職が加美町で、色々心配事や悩みもありました。加美町に来たばかりの頃、まだ加美町について何も知らないで、町内のお店に行って話しかけてみました。とても緊張して失敗もありましたが、自己紹介してお話したら、美味しいお店などを親切に紹介してくれました。職場でも、食事大丈夫ですか?と気遣ってくれたり、風邪を引いたら病院を紹介してくれたり、何でも教えてくれます。私のことをとても心配してくれて、加美町に来る前の悩みがもう無いです。

一大:カタリーナさんから、提案したことは色々手伝ってくれて実現していけるということでしたが、楊さんはいかがですか?

楊:できることよってかなと思います。辛抱強く聞いてくれて、何も知らない外国人に対して面倒くさからず時間に掛けて教えてくれることはとてもありがたいです。

一大:役場の方は、楊さんに体験してもらえる



PANEL DISCUSSION

ように色々なところへ連れ出しているようですが、どう思いますか?

楊:他の人に紹介するには、自分が体験しないといけないと思っています。ちょっと残念なのですが、加美町に来てからコロナでお祭りが中止になって、虎舞は一度も体験したことがないんです。例えば、観光パンフレットなども翻訳して、どういうことか知っていて紹介もできますが、雰囲気や想いは体験しないと伝えられないと思っています。もっと知りたいので、難しいことでもやりたいです。



【楊さんの職場の方のお話】

- ・親しみを込めて「楊ちゃん」と呼んでいます。
- ・明るくて、どこでもとけこめる人で、ひょうきんという言葉がとてもぴったり。今はSNSでの情報発信を中心にしていますが、本当は対「ひと」との仕事で強みを発揮する方なので、コロナ収束後は、もっと楊ちゃんの力を引き出して一緒に仕事していきたいです。

テ:近くにきれいな薬菜山があります。あと、鳴瀬川の水もきれいで、豊かな町だと思います。周りもいい人がたくさんいます。それから、スパーに勤めている人と友達になって、安売りの時や今日はいいものがあるよ、といったことを教えてもらったことがあります。ほかにも野菜やキャベツもいただいたりもします。

一大:楊さん、カタリーナさんはどうですか？

楊:役場の人や地域の人から「お米食べますか？ありますか？」と、新鮮な野菜や果物をいただきました。

カ:先週、宮崎に住んでいる方から梅ジャムをいただきました。毎年同じ人からいただいていて、楽しみにしています。

一大:すごいですね。野菜をもらったりスパーの割引情報を教えてもらったりと、優しい人がそろっている加美町ですが、今藤さん、先輩町民としてどのようにお考えでしょうか？

今:普段町民として、私たちが当たり前だと思っていたことが本当に素晴らしいものなのだと、

加美町が外国人にとって もっと住みやすい町になるために

一大:では、もっと加美町が外国人にとって住みやすい町になるためには、どうしたらいいでしょうか。

テ:交通手段ですね。バスがほぼありませんが、30分おきに来てほしいです。

一大:ティさん、一回自転車で古川まで買い物に行ったことがあるそうですね。

テ:大変でした。それから、筋トレをやりたいのですが、公園に筋トレ道具、例えば、懸垂棒とかがあればいいと思います。

一大:もしかしたら、そこから交流の輪が広がるかもしれませんね。

カ:外国人と地域の方が気軽に交流できるスペースや機会を作りたいです。町の色々な方とお話して、町の商店街で外国人の方が自転車で走っているのを見かけるけれど、その方々

どうしたらつながることができるかという話を何度も聞きます。去年開催した写真展でもゲストブックに今度は実際に外国人の方と交流したいというメッセージがありました。

楊:まず、ティさんの交通手段についての提案はすごく賛成します。私もインバウンド観光のPRをすると、外国人が興味を持ってくれても、車以外の交通手段がなくて、加美町に住んでいる外国人だけでなく、旅行したい外国人にとっても不便です。地元の人にとって車を持っていることは当たり前のことなのですが、外国人にとっては負担が大

きいです。私も1年目は車がなくてどこにも行けなくて2年目に車を買いました。それから、個人的に不便なところは、お医者さんと晩御飯ですね。たまに仕事で疲れたときに晩御飯を食べられるところがないです。観光担当としては、商店街がもっと生き生きしてほしいです。

一大:もしかしたら日本人には、それはそういうものとして普段意識しないことかもしれませんが、なかなか急に解決できる問題ではないと思いますが、長期的な課題のひとつとしてとらえていただければなと思いました。今藤さんは今のお話を聞いていかがですか？

今:いつだったかカタリーナさんが、寄付を募って、加美町から鉄道を走らせたらという大胆なことをおっしゃっていたことを思い出しましたが、互いを知る場所を作ることは私も大事ではないかと思っています。例えば、一般家庭にホストファミリーになってもらうとか。町では、「かみ活」という地域活動の取り組みがあります。外国

人と日本人がと一緒になって暮らしをよくしていくパートナーになれるのではないかと思います。多言語表記を増やすことや町内に住んでいる外国人を町内会に紹介するとか。ほかにもボランティアで頑張っている方たちを表彰するなどすることで、こういう人がいるということを地域に紹介することも大事ではないかと思います。

多様な文化を持った人たちが社会で共生していくために必要なこと

一大:宮城県では外国人が増えてきています。日本人と外国人が助け合いながら共に暮らしていく社会になるためには、どのようなことが必要でしょうか。

カ:多文化共生というのは、外国人を支援、サポートすることではなくて、お互いの文化に興味を持つ、知ること、尊重することだと思います。社会で共存していくために何が必要かということ、やはり交流できる場所、機会を作ることは大事だと思います。

テ:日本人は外国人に声をかけにくいのだと思いますが、僕たちが日本の習慣、風習に合わせれば仲良くなれるかなと思います。それから相手のことを思いやること、言葉遣いに気を付けることが大切です。

一大:お互いのことを尊重する関係になるにはまず、出会って交流を深めることが大事ということですね。それから、相手を思いやる気持ちと言葉遣いが大切という指摘でしたが、お互い丁寧な言葉でわかりやすい言葉で話をするのがよい関係につながるということですね。

大泉 貴広

公益財団法人宮城県国際化協会 総括マネージャー

国内外の教育機関や公的機関で日本語教育に従事した後、1999年より(財)宮城県国際交流協会(現(公財)宮城県国際化協会)に勤務。地域日本語教育推進事業、外国籍児童生徒支援事業、技能実習生と地域との関係づくり促進事業などの企画・運営を通して本県の多文化共生推進に努めている

楊:日本では当たり前のことでも外国人にとっては「なんでそうなの？」と、意味が分からないことがあります。お互いのことをよく理解していないからそうなることも。だから、たまに交流会のようなものを企画して、お互いに理解し合って、どちらも受け入れられる良い方法を見つけるようにならない、と思います。日本人の子どもたちも外国人が怖いかもしれません。例えば、週末に「外国人はそんなに怖くないですよ」「みんな違いますよ」ということが理解できる小さな楽しいイベントがあってもいいと思います。



地域を支える 外国人と考える 加美町の未来

見直す必要があると感じました。薬菜山や鳴瀬川の美しさ、人の良さなど。また、3人の方が職場で一生懸命に働いていらっしゃる、明るい人柄で正直にコミュニケーションをとっているからこそ、周りの人が放っておかない存在なのだと思います。



今藤 紀雄

加美町国際交流協会(KIFA) 会長

1951年加美町(旧宮崎町)生まれ。東北学院大学文学部英文学科卒業後、宮城県小学校講師、中学校教諭、高校教諭、仙台市教育センター指導主事、宮城県教育研修センター指導主事を経て、宮城県小・中学校長を務め、県立高校校長を定年退職。現在は東北学院大学非常勤講師として勤務。

一大:当たり前だと思っていた加美町の良さというのを改めて気づかせてくれる方々というお話がありました。

今:体験を共有することを通して色々な心構えができるのではないかと思います。そこには4つの態度、①相手の立場に立って痛みを感じる共感するという態度、②自分を第三者として客観的にみる態度、③差別や偏見を持たない姿勢・態度、④異なった文化に対する寛容さ、まず受け入れるという態度が重要です。3人とも好奇心が旺盛で、色々な文化を受け入れる力を持っています。ぜひこのような態度や姿勢が私たちの中にも生まれるような機会をこれから作っていく必要があるのではないかと考えています。

一大:大切な4つの態度というお話がありました。私たち日本人側が身につけるために、3人のような人たちを町の色々な取組に巻き込んでいっていただけたらと思います。

これから取り組みたいこと 将来の夢

カ:私は任期があと7か月しかないのですが、外国人と地域の方が交流できるスペースづくりやイベントを企画したいと思っています。それから、母国のサンティアゴ大学と関係を作りたいと考えています。

楊:地域おこし協力隊として残り1年ほど任期が

ありますが、観光担当として、できれば一度でもいいので、外国人に加美町をガイドしたいです。私が知っている加美町の面白い、良いところを伝えて外国人との架け橋になりたいと思います。それから、面白い方言をもっと知りたいです。加美町に来る前、仙台で日本語を勉強しましたが、加美町に就職して1日目に「楊さん、おみょうぬづ」と言われて、「どうしよう、今は日本語?」となりました。方言は、外国人、特に日本語学習者にとって面白いので、出会ったら色々な方言を教えてください。今「ちょべつ」としか分からないので、お願いします(笑)

一大:(聴衆へ)先生役になれる人、たくさんいらっしゃると思いますので、ぜひ教えてあげてください。

テ:母国ベトナムの日本の会社で働きたいです。

一大:ぜひ実現していただきたいと思います。

今:協会としては、これからも外国人にも町民にも楽しめるイベントを企画していきたいと思えます。目標は「仲間になること」「新しい友達をつくること」ということで、自分たちの文化や生活を紹介し合う取り組みができるのではと考えています。



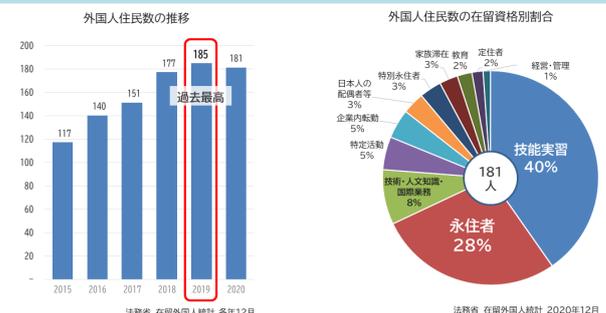
まとめ

一大:今日のシンポジウム全体としては「地域の未来」という、とても大きなテーマが掲げられていますが、未来というのはいわば日々の積み重ねだと思います。ここ加美町では色々な人たちが支え合う「多文化共生の地域づくり」においては、良い毎日の積み重ねが出来ていると強く感じました。ご登壇いただいた3人の外国人の方々は、それぞれの役割を果たして社会に貢献をしています。そして、それをしっかりと支えてくださっている人たちもいる。会社の人たち、役場の人たち、国際交流協会の人たち、それからそれ以外にも地域でさりげなく温かな手を差し伸べている方もいらっしゃるということも、とても印象的でした。この地域では、既に外国の方とそれを受け入れる側のとても良い関係が出来ているので、これをずっと続けていただけて、多文化共生の地域づくりに取り組んでいただきたいと思えます。そして、今日のように外国人の話、外国人に日々接している方々のお話に耳を傾けて、「今以上にこの地域を良くする為に出来ることはなんだろう」ということも引き続き考えていければと思います。

宮城県内の在留外国人数の推移



加美町の現状



講評 加美町長 猪股洋文

パネリストの皆様から町の印象と提案をお聞きし、町の人々の良さを評価していただいたことをうれしく思います。気軽に町の方と外国人が集い、語り合う場、機会について、今後実現していきたいと思っています。

加美町はパラリンピックの際に、「共生社会ホストタウン」に登録されました。町が目指すのは、まさにインクルーシブな、排除しない、様々な文化を持った人たちがともに支え合い暮らしていける町です。町としては、来年以降も地域おこし協力隊員として外国の方を受け入れたいと考えています。また、来年4月から中新田高校が全国募集のモデル校になりました。高校の魅力を高めるためにカヌーを強化することとし、来年はカヌー強豪国のハンガリーからコーチを招聘するため国に申請しているところです。ハンガリーのコーチから中新田高校の生徒だけでなく、中学生さらには小さな子どもまで学べるような体制を整えていきたいと考えています。子どもたちはカヌー以外にも、文化や言語も学ぶことができるだろうと楽しみにしています。また民間レベルでも、町内で技能実習生を受け入れる組合の設立に向けた取組も行われていると聞いています。

さまざま機会を通じて、加美町の皆さんと様々な文化を持つ人たちが互いに支え合い、心豊かに暮らせる町を作っていきたいと思っています。



第2部 交流会 中新田火伏の虎舞保存会 演舞披露、虎舞体験

第2部の交流会では、中新田火伏の虎舞保存会による演舞披露及び虎舞の体験が行われました。体験では、地域の技能実習生が参加し、太鼓や虎舞の踊り方などを体験し交流しました。体験者からは「中腰で踊り続けるのは大変」「母国にも似たような祭りがある」などの話がありました。



宮城県・宮城県人権啓発活動ネットワーク協議会 <みんなの人権110番>0570-003-110

※この資料は、法務省の人権啓発活動地方委託費を活用して作成しております。

宮城県 経済商工観光部 国際政策課 〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8-1

電話 022-211-2972 / E-mail kokusaik@pref.miyagi.lg.jp / URL http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ftp-kokusaik/

人権イメージキャラクター
人KENまもる君

